慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小倉孝誠教授履歴・研究業績
Sub Title	Biographical resume & list of publication of Professor Kosei Ogura
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2020
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.119, No.2 (2020. 12) ,p.[i]- xxx
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小倉孝誠教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01190002--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小倉孝誠教授　履歴・研究業績

履歴

学歴

1974 年 3 月　青森県立弘前高校卒業

1974 年 4 月　京都大学文学部入学

1978 年 3 月　京都大学文学部卒業（仏文学科）

1978 年 4 月　東京大学人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学）

1980 年 9 月～ 1982 年 7 月　フランス、リヨン第２大学留学（国際ロータリー財団奨学生）

1983 年 3 月　東京大学人文科学研究科修士課程修了（仏語仏文学）

1983 年 4 月　東京大学人文科学研究科博士課程進学（仏語仏文学）

1983 年 9 月～ 1987 年 5 月　フランス、パリ第４大学（ソルボンヌ）、およびパリ高等師範学校留学（フランス政府給費留学生）

1988 年 3 月　東京大学人文科学研究科博士課程中退

学位

1983 年 3 月　文学修士（東京大学）

1987 年 5 月　Docteur ès lettres 文学博士（パリ・ソルボンヌ大学）

職歴

1988 年 4 月　東京大学文学部助手（1989 年 3 月まで）

1989 年 4 月　東京都立大学人文学部助教授（2003 年 3 月まで）

1989 年 4 月～ 2002 年 3 月　東京女子大学、学習院大学、明治学院大学、東京大学、成城大学、京都大学、青山学院大学などの非常勤講師、および都民カレッジ、ＮＨＫ文化センターなどの講師を務める。

2003 年 4 月　慶應義塾大学文学部教授（現在に至る。この間、京都大学、東北大学、愛媛大学、大阪大学、成城大学などで非常勤講師を務める）

受賞歴

1995 年 6 月　渋沢・クローデル賞（『19 世紀フランス　夢と創造』人文書院、1995 年、にたいして）

2006 年 10 月　義塾賞（『身体の文化史』中央公論新社、2006 年、『近代フランスの誘惑』慶應義塾大学出版会、2006 年、にたいして）

2011 年 10 月　日本翻訳出版文化賞（アラン・コルバンほか監修『身体の歴史』全 3 巻、共同監訳、藤原書店、2010 年、にたいして）

2018 年 11 月　福澤賞（「近代フランスの文学と文化史の研究」にたいして）

塾内役職

2003 年 4 月～ 2008 年 3 月　専攻担任

2005 年 4 月～ 2011 年 3 月　遠山記念音楽研究基金委員会委員

2009 年 10 月～ 2011 年 3 月　国際センター副所長（運営委員、交換留学生委員会委員を兼務）

2009 年 5 月～ 2011 年 3 月　『三田評論』編集委員

2013 年 4 月～ 2014 年 10 月　ハラスメント防止委員会　三田地区相談員

2013 年 10 月～ 2015 年 9 月　通信教育部副部長

2014 年 10 月～ 2016 年 9 月、2017 年 10 月～ 2019 年 9 月　西脇順三郎学術賞選考委員会委員

2015 年 10 月～ 2019 年 9 月　大学院文学研究科学習指導

所属学会

日本フランス語フランス文学会（1987 年～）

日仏歴史学会（2003 年～）

日仏美術史学会（2004 年～）

日本ケベック学会（2008 年～）

Association pour l'autobiographie et le patrimoine autobiographique（自伝学会、フランス、1995 年～）

Société littéraire des Amis d'Émile Zola（エミール・ゾラ文学会、フランス、2012 年～）

Société des études romantiques et dix-neuviémistes（ロマン主義・19 世紀研究学会、フランス、2013 年〜、correspondant au Japon 日本側通信会員）

塾外活動・学会活動

2004 年 6 月〜 2005 年 5 月	日本フランス語フランス文学会　幹事長
2005 年 6 月〜 2006 年 5 月	日本フランス語フランス文学会　総務
2006 年 4 月〜	自然主義文学研究会世話人。年 2 〜 3 度の研究集会を実施。
2009 年 4 月〜 2011 年 5 月	日本フランス語フランス文学会関東支部　支部長
2011 年 5 月〜 2015 年 5 月	日本フランス語フランス文学会　副会長
2014 年 10 月〜	日本学術会議連携会員
2017 年 5 月〜	日本フランス語フランス文学会　副会長
2018 年 1 月〜	日本学術会議　言語・文学委員会「古典文化と言語」分科会委員長。分科会として提言「高校国語教育の改善に向けて」(2020 年 6 月 30 日発出) をまとめる。

以上

研究業績一覧

2020 年 10 月 1 日現在

著書（単著）

1. 『19 世紀フランス　夢と創造』、人文書院、1995 年
2. 『19 世紀フランス　光と闇の空間』、人文書院、1996 年
3. 『19 世紀フランス　愛・恐怖・群衆』、人文書院、1997 年
4. 『歴史と表象 ── 近代フランスの歴史小説を読む』、新曜社、1997 年
5. 『〈女らしさ〉はどう作られたのか』、法藏館、1999 年
6. 『近代フランスの事件簿 ── 犯罪・文学・社会』、淡交社、2000 年
7. 『推理小説の源流』、淡交社、2002 年
8. 『「パリの秘密」の社会史　ウージェーヌ・シューと新聞小説の時代』、新曜社、2004 年
9. 『「感情教育」歴史・パリ・恋愛』、みすず書房、2005 年
10. 『身体の文化史』、中央公論新社、2006 年
11. 『近代フランスの誘惑』、慶應義塾大学出版会、2006 年
12. 『〈女らしさ〉の文化史』、中公文庫、2006 年
13. 『パリとセーヌ川』、中公新書、2008 年
14. 『犯罪者の自伝を読む』、平凡社新書、2010 年
15. 『愛の情景　出会いから別れまでを読み解く』、中央公論新社、2011 年
16. 『恋するフランス文学』、慶應義塾大学出版会、2012 年
17. 『革命と反動の図像学』、白水社、2014 年
18. 『写真家ナダール』、中央公論新社、2016 年
19. 『ゾラと近代フランス　歴史から物語へ』、白水社、2017 年
20. 『逸脱の文化史　近代の〈女らしさ〉と〈男らしさ〉』慶應義塾大学出版会、2019 年

著書（共著）

1. 『文学をいかに語るか』(大浦康介編)、新曜社、1996 年、pp. 148-166, 270-288
2. 『ウジェーヌ・アジェ回顧』、淡交社、1998 年、pp. 18-29
3. 『週刊朝日百科　世界の文学』、「16　ヨーロッパⅢ　デュマ、モーリス・ルブランほか」、朝日新聞社、1999 年、pp. 170, 172-175
4. 『週刊朝日百科　世界の文学』、「61　ヨーロッパⅣ　フロベール、ゾラ、モーパッサンほか」、朝日新聞社、2000 年、pp. 10-13
5. 『兆民をひらく』（井田進也編）、光芒社、2001 年、pp. 47-75
6. 『バルザックを読む　評論篇』（鹿島茂・山田登世子編）、藤原書店、2002 年、pp. 57-59
7. 『いま、なぜゾラか　ゾラ入門』（宮下志朗・小倉孝誠編）、藤原書店、2002 年、第 1 章、第 2 章、第 3 章（pp. 97-108）、第 4 章（pp. 150-153, 158-167, 188-191, 195-196）、第 6 章。
8. 『フランスを知る』（東京都立大学フランス文学研究室編）、法政大学出版局、2003 年、pp. iii - vi , 117-123, 131-135, 185-186, 193, 196-204, 207-208, 214, 219-220, 227, 229, 236-237, 238-239, 247, 264-268, 285-290.
9. 『ゾラの可能性　表象・科学・身体』（編著）、藤原書店、2005 年、pp. 1-4、153-170.
10. 『恋の研究』（柴田陽弘編著）、慶應義塾大学出版会、2005 年、pp. 193-211.
11. 『風景の研究』（柴田陽弘編著）、慶應義塾大学出版会、2006 年、pp. 183-216.
12. 『情の技法』（坂本光ほか編）、慶應義塾大学出版会、2006 年、pp. 217-234
13. 『身体のフランス文学』（吉田城・田口紀子編）、京都大学学術出版会、2006 年、pp. 135-143, 182-199.
14. 『フランス文学概説』慶應義塾大学出版会、2010 年、pp. 47-62, 93-106
15. 『フランス文学をひらく　テーマ・技法・制度』（慶應義塾大学文学部フランス文学研究室編）、慶應義塾大学出版会、2010 年、pp. 47-62, 93-106.
16. 『三田文学創刊 100 年展』図録、三田文学会、2010 年、「11. 三田文学と外国文学」pp. 120-129.
17. 『恋愛を考える』（慶應義塾大学文学部編）、慶應義塾大学出版会、2011 年、

pp. 51-67「文学と愛の情景」

18. 『文明のサイエンス』（慶應義塾大学編）、慶應義塾大学出版会、2011 年、pp. 3-30「風景の表象 ── フランス文学を中心に」
19. 『芸術と脳 ── 絵画と文学、時間と空間の脳科学』（近藤寿人編）、大阪大学出版会、2013 年 3 月、pp. 38-53, 234-250.
20. 『書物の来歴、読者の役割』（松田隆美編）、慶應義塾大学出版会、2013 年、pp. 1-28.「作品はどのように生成するか ── エミール・ゾラから永井荷風へ」
21. 『パリ Ⅰ ── 19 世紀の首都』（西洋近代の都市と芸術 No. 2）（喜多崎親編）、竹林舎、2014 年 4 月、pp. 46-63.「十九世紀文学におけるパリの表象」
22. 『パリという首都風景の誕生』（澤田肇編）、上智大学出版会、2014 年 5 月、pp. 251-278.「ゾラとパリの創出」
23. 『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』（小倉孝誠編著）、世界思想社、2014 年 10 月、pp. 9-16, 31-43, 198-220, 250-272.
24. 『身体はどう変わってきたか ── 16 世紀から現代まで』、藤原書店、2014 年 12 月、pp. 1-12, 83-114, 230-268.
25. *Comment la fiction fait histoire. Emprunts, échanges, croisements*, textes réunis par Noriko Taguchi, Honoré Champion, 2015, pp. 171-182, « L'Inscription de l'histoire dans *La Débâcle* de Zola »
26. 『フランス文学史Ⅱ』（編著）、慶應義塾大学出版会、2016 年、pp. 3-6, 80-128, 151-173.
27. *Naturalisme.-Vous avez dit naturalismes ?*, textes réunis par Céline Grenaud-Tostain et Olivier Lumbroso, Presses Sorbonne Nouvelle, 2016, pp. 49-53, « Un *Guide Zola* en japonais » , pp. 121-128, « L'héritage du naturalisme au Japon ».
28. *Dictionnaire des naturalismes*, sous la direction de Colette Becker et Pierre-Jean Dufief, Honoré Champion, 2017, pp. 557-559.
29. *Dictionnaire Flaubert*, sous la direction de Gisèle Séginger, Honoré Champion, 2017, pp. 273-274, 676-678, 1521-1525.
30. 『世界文学へのいざない ── 危機の時代に何を、どう読むか』（編著）、新曜社、2020 年 6 月、pp. 3-8, 16, 42-51, 54, 90, 120, 138-145, 150, 166-173, 186, 212-219, 222-223, 226, 264, 301-304.

辞典執筆

1. 『プログレッシブ仏和辞典』、小学館、1992 年
2. 『集英社世界文学大事典　5　事項』（「歴史小説」、「新聞小説」、「自然主義」など 8 項目を担当）、集英社、1997 年
3. 『岩波世界人名大辞典』、岩波書店、2013 年。「フランス文学」関連の項目を担当。
4. 『土の百科事典』、丸善出版、2014 年。「フランス文学」関連の項目を執筆。
5. 『広辞苑』第 8 版、岩波書店、2018 年 1 月、「フランス文学」などの項目の校閲、および新加項目の執筆。

論文

1. *L'Inscription de l'Histoire dans le roman de Flaubert*, thèse pour le nouveau doctorat de l'université présentée à l'Université de Paris IV sous la direction de M. le Professeur Michel Raimond,1987. (inédit)
2. 「『感情教育』の中の二月革命 ── フロベールと同時代の作家たち」、『仏語仏文学研究』、第 1 号、東京大学、1987 年、pp. 85-103
3. « Proudhon jugé par Flaubert : notes de lecture de Flaubert sur *Qu'est-ce que la propriété ?* », *Equinoxe*, n° 1, Kyoto, 1987, pp. 107-116
4. « Poétique de l'histoire dans *L'Education sentimentale* », *Études de Langue et Littérature Françaises*, n° 52, Tokyo, mars 1988, pp. 46-63
5. 「フローベールにおける知の生成と変貌 ──『感情教育』と社会主義的言説」、『文学』、岩波書店、1988 年 12 月、vol. 56、pp. 67-98
6. 「フローベール研究の現状（1965-1988）」（共著）、同上、pp. 225-247
7. 「フローベール研究文献目録」（共著）、同上、pp. 248-260
8. 「ゾラにおける知・歴史・神話 ──『壊滅』試解」、『明治学院論叢』、第 447 号、1989 年、3 月、pp. 91-103
9. 「オーギュスタン・ティエリにおける歴史叙述の詩学と論理」、東京大学文学部科研費成果報告書、1989 年 3 月、pp. 73-90
10. 「十九世紀文学における民衆 ── バルザック・ミシュレ・ゾラ」、都立大学『佛文論叢』、第 6 号、1990 年 4 月、pp. 3-34

11.「歴史小説論序説（1)」、都立大学『人文学報』、第 228 号、1990 年 12 月、pp. 29-50
12.「マルグリット・ユルスナールと自伝の誘惑」、東京大学『仏語仏文学研究』、第 6 号（菅野昭正教授退官記念特集号)、1991 年、pp. 171-186
13.「歴史小説論序説（2)」、都立大学『人文学報』、第 230 号、1992 年 3 月、pp. 33-60
14.「自伝の構図」、都立大学『人文学報』、第 246 号、1993 年 3 月、pp. 41-60
15. « Le Discours socialiste dans l'avant-texte de *L'Éducation sentimentale* », *Gustave Flaubert*, n° 4 « Intersections », Paris, Minard, « Lettres modernes », mai 1994, pp. 43-76
16. « La tradition autobiographique au Japon », *La Faute à Rousseau*, Journal de l'Association pour l'Autobiographie et le Patrimoine Autobiographique, n° 10, octobre 1995, pp. 45-46
17. « Le "Jibunshi" : Une pratique ordinaire de l'autobiographie au Japon », *La Faute à Rousseau*, n° 11, février 1996, pp. 46-48
18.「ナポレオン三世時代のフランス」、『歴史群像』、第 25 号、学習研究社、1996 年 6 月、pp. 66-79
19.「病人の誕生」、『仏教』、1997 年 6 月号、pp. 49-58
20.「病いと 19 世紀文学」、『フランス文学における心と体の病理 —— 中世から現代まで』、京都大学大学院文学研究科、科学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者：吉田城)、2000 年 3 月、pp. 87-109
21.「ロマン主義歴史学の射程 —— オーギュスタン・ティエリを中心にして」、『フランス哲学思想研究』、日仏哲学会、第 5 号、2000 年、pp. 80-95
22.「『思い出』エルネスト・ルナン」、『自伝の名著 101』、佐伯彰一編、新書館、2000 年、pp. 66-67
23.「オリエントの誘惑 —— マクシム・デュ・カンの東方紀行」、『マクシム・デュ・カン展カタログ』三鷹市美術ギャラリー、2001、Pp. 7-13
24. « La Tentation de l'Orient : Flaubert, Maxime Du Camp et le voyage en Orient »*Flaubert, Tentations d'une écriture*, Université de Tokyo, 2001, pp. 53-70
25.「メディアと一九世紀フランス」、『岩波講座　文学２メディアの力学』、岩波

書店、2002 年、pp. 83-103

26.「娯楽とイデオロギー　一九世紀フランスの新聞小説」、『文学』、岩波書店、2003 年 1・2 月号、pp. 56-59

27.「テクノロジーの表象—19 世紀フランス文学と鉄道」、「鉄道と絵画」展カタログ、西日本新聞社、2003 年 8 月、pp. 96-98

28,「メダンを訪ねて」、『環』no. 16, 2004 年冬号、藤原書店、pp. 298-305

29.「近代フランス文学と東方紀行」、『藝文研究』第 86 号、慶應義塾大学、2004 年 6 月、pp. 125-135

30.「ラスネールの『回想録』 —— 犯罪者はいかに自己を語るか」、『藝文研究』第 86 号、慶應義塾大学、2004 年 6 月、pp. 324-340

31.「めくるめく香りに魅せられて—十九世紀フランスにおけるにおい・文学・社会」、『文学』、岩波書店、2004 年 9-10 月号、pp. 89-99

32.「フランス大衆小説の射程」、『日本近代文学』第 71 集、2004 年 10 月、pp. 262-269

33.「文学と音の風景」、『フランス文学における身体 —— その意識と表現』、京都大学大学院文学研究科、科学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者：吉田城）、2005 年 3 月、pp. 135-246

34.「ロダンとその時代」、『ロダン事典』、淡交社、2005 年 4 月、pp. 10-36.

35.「タブーと侵犯 —— 不倫の恋の物語」、柴田陽弘編『恋の研究』、慶應義塾大学出版会、2005 年 8 月、pp. 193-211.

36.「スティグマの表象　エイズと現代文学」、『藝文研究』第 89 号、慶應義塾大学、2005 年 12 月、pp. 1-17

37.「近代フランスにおける「女らしさ」の規範と表象」、『語用論研究』、第 7 号、2005 年 12 月、pp. 97-108

38.「ミシュレと歴史学の刷新」、ミシュレ『フランス革命史』（上・下巻、中公文庫、2006 年）解説、下巻 pp. 456-487

39.「グリゼットの栄光と悲惨」、『藝文研究』第 91 号、慶應義塾大学、2006 年 12 月、pp. 310-328

40.「性差と姿勢」、『理学療法』第 24 巻第 1 号、2007 年 1 月、pp. 81-86

41.「何が女性をダイエットに向わせたのか　その歴史と美意識」、『ヴェスタ』69 号、2008 年 2 月、p. 33-37

42.「バルトと歴史の誘惑」、ピーター・トリフォナス『バルトと記号の帝国』（岩波書店、2008 年）、解説、p. 79-104
43.「フランスの新聞小説と読者の手紙」、『文学』、2009 年 11-12 月号、岩波書店、特集「十九世紀の文学」、pp. 131-142
44.「隅田川からセーヌ川へ」、『三田文学』2010 年冬季号、慶應義塾大学出版会、pp. 82-89
45.「ボヘミアンとグリゼット」、歌劇「ラ・ボエーム」パンフレット（びわ湖ホール）、2010 年 3 月、pp. 15-20
46.「悪魔か殉教者か」、『アリーナ』（中京大学）、第 8 号、2010 年 3 月、pp. 89-108
47.「東方紀行の系譜」、『フランス文学概説』（慶應義塾大学通信教育部テキスト）、2010 年 4 月、pp. 47-62
48.「自己を語る文学」、『フランス文学概説』（慶應義塾大学通信教育部テキスト）、2010 年 4 月、pp. 93-106
49.「19 世紀パリの民族史 ── テクシエ『タブロー・ド・パリ』」、Texier, Tableau de Paris, 復刻版解説、アティーナ・プレス社、2010 年 10 月、pp. 1-28
50.「タンタンと大衆文学の系譜」、『ユリイカ』（青土社）、2011 年 12 月号、pp. 141-148
51.「手紙を読む　ゾラの『書簡集』をめぐって」、『藝文研究』第 101 号、慶應義塾大学、2011 年 12 月、pp. 148-165
52.「歴史叙述・時間・物語 ── 歴史はどのように書かれてきたか」、『芸術と脳の対話』、国際高等研究所報告書、2012 年 2 月、pp. 25-34
53.「女の身体と男のまなざし ── 一九世紀フランスは女性をどのように表象したか」、『芸術と脳の対話』、国際高等研究所報告書、2012 年 2 月、pp. 133-143
54. « Un nouveau Zola au Japon », *Les Cahiers naturalistes*, N° 86, 2012, pp. 415-424
55.「犯罪とジャーナリズムと文学」、『キネマ旬報』2012 年 10 月下旬号、No. 1622、pp. 66-69
56.「ヒステリーを可視化する」、『キネマ旬報』2012 年 11 月上旬号、No. 1623, pp. 34-36
57.「19 世紀の性科学と文学」、『藝文研究』、慶應義塾大学、2012 年 12 月

58.「サドと近親愛」、『ユリイカ』、青土社、2014 年 9 月号、特集「サド」、pp. 75-83.
59.「政治的装置としての風刺画」、『ふらんす』臨時増刊号、白水社、2015 年 3 月号、pp. 10-12
60.「ゾラ『制作』の射程」、『文学』、岩波書店、2015 年 3-4 月号、第 16 巻・第 2 号、pp. 266-281
61.「解説」、辰野隆『フランス革命夜話』、中公文庫、2015 年 8 月、pp. 189-201.
62.「19 世紀パリへの魅惑的ないざない」、『La Grande Ville 大都市 ── 新パリ案内』別冊解説、アティーナ・プレス、2015 年 10 月、16 頁
63.「楽観主義者の幸福論 ── アラン、そして現代へ」、アラン『幸福論』解説（宗左近訳、中央公論新社、2016 年）、pp. 7-30.
64.「ゾラ『ルーゴン = マッカール叢書』の起源」、『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』第 64 号、2017 年 3 月、pp. 169-188
65.「アラン・コルバンと歴史学の転換」、『思想』、岩波書店、2018 年 1 月号、pp. 150-160
66.「リアリズム文学における知と視線 ── 19 世紀フランス小説にそくして」、『19 世紀文学とリアリズム ── 共時的文学現象に関する文化横断的研究』、リアリズム文学研究会、公開研究会報告書、2018 年 3 月、pp. 7-18.
67.「若い娘たちの表象 ── 魂から身体へ」、『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』第 67 号、2018 年 10 月、pp. 33-56
68.「生理学シリーズの原点」、『Paris ou le Livre des Cent-et-un パリあるいは百一の書』別冊解説、アティーナ・プレス、2018 年 10 月、18 頁。
69.「解説」、ユゴー『死刑囚最後の日』（光文社古典新訳文庫）解説、2018 年 12 月、pp. 236-297.
70.「歴史をどのように表象するか ── 文学と歴史学の接点」、『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』第 69 号、2019 年 10 月、pp. 121-144.
71.「天使的な娘からギャルソンヌへ ── 若い女性たちの表象と現実」、『女性学研究』27 号（大阪府立大学）、2020 年 3 月、pp. 63-88.
72.「19 世紀のフランス人と海」、クールベ展図録、2020 年 9 月、pp. 12-17.
73.「文学と認識論 ── フロベールと歴史のエクリチュール」、『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』第 71 号、2020 年 10 月、pp. 87-102.

翻訳

1. エルズリッシュ／ピエレ『〈病人〉の誕生』、藤原書店、1992 年
2. アラン・コルバン『時間・欲望・恐怖』（共訳）、藤原書店、1993 年
3. ピエール・マシュレ『文学生産の哲学』、藤原書店、1994 年
4. ピエール・ブルデュー、アラン・コルバンほか『ブックレット　女の歴史』（共訳）、藤原書店、1994 年
5. フィリップ・ルジュンヌ『フランスの自伝』、法政大学出版局、1995 年；新装版、2020　年
6. フェーヴル／デュビー／コルバン『感性の歴史』（監訳）、藤原書店、1997 年
7. アラン・コルバン『音の風景』、藤原書店、1997 年
8. パスカル・ブリュックネール『無垢の誘惑』（共訳）、法政大学出版局、1999 年
9. オノレ・ド・バルザック『あら皮』、藤原書店、2000 年
10. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー思考集成』Ⅵ , Ⅶ（共訳）、筑摩書房、2000 年
11. ギュスターヴ・フローベール『紋切型辞典』、岩波文庫、2000 年
12. ルイ・アルチュセール『フロイトとラカン　精神分析論集』（共訳）、人文書院、2001 年
13. マルグリット・ユルスナール『空間の旅　時間の旅』（共訳）、白水社、2002 年
14. アラン・コルバン『風景と人間』、藤原書店、2002 年
15. エミール・ゾラ『時代を読む　1870-1900』（共訳）、藤原書店、2002 年
16. ジャック・ル＝ゴフほか『世界で一番美しい愛の歴史』（共訳）、藤原書店、2004 年
17. アラン・コルバン＋陣内秀信「都市とは何か」（対談）、『環』no. 17, 2004 年春号、pp. 30-64.
18. アラン・コルバン「歴史家から見たゾラ」、『環』no. 19, 2004 年秋号 , pp. 18-27.
19. ルイ・シュヴァリエ『三面記事の栄光と悲惨』（共訳）、白水社、2005 年
20. アラン・コルバン『空と海』、藤原書店、2007 年
21. アラン・コルバン＋志村ふくみ「色・におい・からだ」（対談）、『環』no. 32, 2008 年冬号 , pp. 24-42.

22. ジャン＝クリスチャン・プティフィス『ルイ十六世』（監修）、全2巻、中央公論新社、2008年
23. アラン・コルバン「〈身体の歴史〉とは何か」、『環』no. 40, 2010年冬号、pp. 32-45.
24. アラン・コルバンほか『身体の歴史』全3巻（監訳）、藤原書店、2010年
25. マルグリット・ユルスナール『北の古文書』（〈世界の迷路　Ⅱ〉）、白水社、2011年
26. エミール・ゾラ『書簡集』（監訳）、藤原書店、2012年4月
27. ブリュノ・ヴィアール『100語でわかるロマン主義』（共訳）、白水社《クセジュ文庫》、2012年8月
28. エリック・コバスト『100の神話で身につく一般教養』（共訳）、白水社《クセジュ文庫》、2012年10月
29. アラン・コルバン『英雄はいかに作られてきたか』（共訳）、藤原書店、2014年3月
30. ピエール＝フランソワ・ラスネール『ラスネール回想録』（共訳）、平凡社、2014年8月
31. アラン・コルバンほか監修『男らしさの歴史』（監訳）、全3巻、藤原書店、2016年11月～2017年7月
32. フランソワ・オランド「ゾラの業績と精神を讃えて」（訳・解説）、『すばる』2018年3月号、pp. 172-184.
33. アラン・コルバン『処女崇拝の系譜』（共訳、および解説）、藤原書店、2018年6月
34. アラン・コルバン『静寂と沈黙の歴史』（共訳、および解説）、藤原書店、2018年11月
35. ヴィクトル・ユゴー『死刑囚最後の日』、光文社古典新訳文庫（訳・解説）、2018年12月
36. ジョルジュ・ヴィガレロ監修『感情の歴史』第Ⅰ巻（共訳）、藤原書店、2020年4月
37. フレデリック・ルノワール『哲学のやさしく正しい使い方　叡智への道』中央公論新社、2020年4月

語学教科書

1. 『エメ・ヴ・ラ・フランス？』（共著）、第三書房、1994 年
2. 『恋文』（共著）、第三書房、1998 年

紹介記事・短文・コラム

1. 「病気と病人」、『機』、藤原書店、nº 20、1992 年 10 月
2. 「感性の歴史家の来日」、『機』、藤原書店、nº 25、1993 年 3 月
3. 「環境学と文学－新たな価値観の創造」、『機』、藤原書店、nº 30、1993 年 9 月
4. 「哲学者は文学をいかに読むか」、『機』、藤原書店、nº 35、1994 年 2 月
5. 「19 世紀フランス文化史の可能性」、『青淵』、1995 年 10 月号
6. 「十九世紀とペット」、『青淵』、1996 年 10 月号
7. 「身体、この謎めいたもの」、『青淵』、1999 年 9 月号
8. 「空間から風景へ」、『機』、藤原書店、nº 127、2002 年 6 月
9. 「甦るゾラ」、『西日本新聞』、2003 年 5 月 8 日
10. 『「パリの秘密」の社会史』、「書評　著者インタビュー」、『週刊エコノミスト』（毎日新聞社）、2004 年 6 月 1 日
11. 「ウージェーヌ・シュー生誕二百年に寄せて」、『しんぶん赤旗』、2004 年 8 月 3 日
12. 「ヴェルヌ没後百年」、『毎日新聞』、2005 年 3 月 27 日
13. 「SF 小説の先駆者 J・ヴェルヌ」、『公明新聞』、2005 年 9 月 4 日
14. 「青い麦の味は？」、『三田評論』、2005 年
15. 「近代都市パリの光芒」、『三色旗』、697 号、2006 年 4 月
16. 「執筆ノート『身体の文化史』」、『三田評論』、1092 号、2006 年 7 月
17. 「近代性はいかに語られたか」、『三色旗』、701 号、2006 年 8 月
18. 「美の十選　セーヌの姿」、『日本経済新聞』、2007 年 5 月（計 10 回）
19. 「サロン・カフェ・地下出版」、『哲学の歴史』第 6 巻、中央公論新社、2007 年 6 月、pp. 534-538
20. 「産業革命と文学」、『哲学の歴史』第 8 巻、中央公論新社、2007 年 11 月、pp. 108-110
21. 「ビネのフェティシズム論」、『フロイト全集』第 2 巻月報、2008 年 5 月、

pp. 1-5

22.「真夏の夜のミステリ」、『三田評論』No.1115、2008 年 8-9 月号、pp. 58-70

23.「三銃士を旅する」（談話）、『ＮＨＫ連続人形活劇　新・三銃士　完全ガイドブック』、NHK 出版、2009 年 11 月、p. 45-52

24.「セーヌ川と文学」、『ふらんす』2010 年 1 月号、pp. 46-47

25.「身体は歴史の産物である」、『機』、2010 年 3 月、pp. 1-3

26.「愛の情景～出会いから別離まで」、『ふらんす』、2010 年 4 月～ 2011 年 3 月

27.「執筆ノート『犯罪者の自伝を読む』」、『三田評論』、2010 年 12 月

28.「フラふら書簡」、『まいにちフランス語』（荻野アンナとの往復書簡）、ＮＨＫ出版、2011 年 4 月～ 2012 年 3 月

29.「〈世界の迷路〉へのいざない」、『ふらんす』2011 年 6 月号、pp. 17-19

30.「本と私」、共同通信配信、2012 年 4 月（『中國新聞』その他 10 紙ほど）

31.「あおもり人ごよみ」、『東奥日報』、2013 年 1 月 11 日

32.「椿姫の生と死」、『三田評論』、2014 年 2 月号

33.「過去への問いから現代へ、歴史叙述と文学」、『図書新聞』インタビュー、2014 年 5 月 31 日、3160 号

34.「セザンヌとゾラ　決裂せず」、『朝日新聞』インタビュー、2014 年 7 月 15 日夕刊

35.「ゾラとセザンヌの友情」、『読売新聞』、2014 年 7 月 24 日朝刊

36.「セザンヌからゾラへの手紙、新発見」、『ふらんす』、2014 年 9 月号、p. 74.

37.「ゾラとセザンヌ」、共同通信配信、各種地方紙、2014 年 10 ～ 11 月

38.「フランスの麦畑を見て浪岡の田園を思い出す」、『あおもり草子』、2014 年 12 月号、pp. 4-5.

39.「フランスの風刺画に政治的機能」、『読売新聞』、2015 年 1 月 30 日朝刊

40.「美術と文学 ── 共鳴と相克」、『日本経済新聞』、2015 年 2 月（計 4 回）

41.「バルザックが描く〈格差〉」、『日本経済新聞』読書欄インタビュー、2015 年 2 月 22 日朝刊

42.「執筆ノート『身体はどう変わってきたか』」、「三田評論」、2015 年 3 月号

43.「資本に翻弄　悲劇を文学に」、『朝日新聞』文化欄インタビュー、2015 年 3 月 3 日

44.「フランス文学の主要テーマと新傾向」、『三色旗』2015 年 4 月号〔第 799 号〕、

2015 年 4 月

45.「19 世紀パリの劇場と社交」、新国立劇場、オペラ『椿姫』パンフレット、2015 年 5 月、pp. 20-23.

46.「マルクスからゾラへ」、白水社ホームページ Web サイト、2015 年 8-9 月

47.「望遠郷」、『陸奥新報』2015 年 6 月～ 2016 年 5 月（計 7 回）

48.「生理学シリーズの原点」、『パリあるいは百一の書』復刻版宣伝カタログの推薦文、アティーナ・プレス、2016 年 5 月

49.「山田登世子氏を悼む」、『中日新聞』2016 年 8 月 19 日

50.「作家の魂、大統領を鼓舞」、共同通信配信、『京都新聞』2016 年 10 月 18 日ほか

51.「執筆ノート『写真家ナダール』」、『三田評論』、2016 年 12 月号

52. 座談会「いま、フランス革命史を読み直す」、『ふらんす』2017 年 2 月号 pp. 12-19.

53.「学習のすすめ —— 文学の学び方」、『三色旗』2017 年 2 月号〔第 810 号〕、pp. 44-48.

54.「概観　フランス文学 2016」、『文藝年鑑 2017』、2017 年 7 月

55.「パリのボヘミアン」、『ふらんす』2017 年 4 月号～ 2018 年 3 月号

56.「2017 年度上半期　読書アンケート」、『図書新聞』3312 号、2017 年 7 月 22 日

57.「テキストの周辺　フランス文学史Ⅱ」、『三色旗』2017 年 10 月号〔第 814 号〕

58.「概観　フランス文学 2017」、『文藝年鑑 2018』、2018 年 7 月

59.「あとがきのあとがき」、訳者インタビュー、光文社古典新訳文庫ウェブサイト、2019 年 3 月 15 日

60.「仏国民結んだ《貴婦人》 信仰の光、歴史とともに」、『日本経済新聞』2019 年 4 月 19 日

61.「執筆ノート『逸脱の文化史』」、『三田評論』、2019 年 6 月号

62.「概観　フランス文学 2018」、『文藝年鑑 2019』、2019 年 7 月

63.「情熱と行動力によって実現した力作 —— 升水紀子君卒業論文講評」、『三色旗』2019 年 10 月号

64.「19 世紀パリへの誘い 『椿姫』が生きた時代」、オペラ『椿姫』上演パンフレット、東京二期会、2020 年 2 月、pp. 32-36.

65.「文学で他者に出会う」（インタビュー）、季刊『読書のいずみ』162 号、

2020 年 3 月、全国大学生活協同組合連合会、pp. 16-23.

66.「1900 年、パリ～ベル・エポックの風に吹かれて」（インタビュー）、月刊誌『歌劇』2020 年 4 月号、宝塚クリエイティブアーツ、pp. 3-5.

67.「２万通のなかの１通」、『日本経済新聞』、2020 年 4 月 18 日

68.「概観　フランス文学 2019」、『文藝年鑑 2020』、2020 年 7 月

69.「高校国語の科目再編」、『日本経済新聞』、2020 年 8 月 10 日

書評

1. エレーヌ・ド・ボーヴォワール『わが姉ボーヴォワール』（福井美津子訳、平凡社、1991 年）、京都新聞、1991 年 9 月 16 日
2. 鹿島茂『パリ時間旅行』（筑摩書房、1993 年）、『文化会議』、1993 年 10 月号
3. エミール･ゾラ『ジェルミナール』（河内清訳、中公文庫、1994 年）、産経新聞、1994 年 8 月 17 日
4. 西川恵『エリゼ宮の食卓』（新潮社、1996 年）、産経新聞、1996 年 9 月 16 日
5. 三富明『ワーグナーの世紀』（中央大学出版部、2000 年）、『中央評論』、2000 年 5 月号
6. 内田隆三『探偵小説の社会学』（岩波書店、2000 年）、日本経済新聞、2001 年 2 月 18 日
7. 有田英也『ふたつのナショナリズム』（みすず書房、2000 年）、図書新聞、2001 年 3 月 17 日
8. 私市保彦『フランスの子どもの本』（白水社、2001 年）、東京新聞、2001 年 3 月 25 日
9. ミシェル･ウエルベック『素粒子』（野崎歓訳、筑摩書房、2001 年）、東京新聞、2001 年 10 月 14 日
10. レベッカ･L･スパング『レストランの誕生』（小林正巳訳、青土社、2001 年）、日本 経済新聞、2002 年 1 月 13 日
11. アンヌ・マルタン＝フュジエ『優雅な生活　パリ社交集団の成立 1815-1848』（前田祝一監訳、新評論、2001 年）、図書新聞、2002 年 3 月 19 日
12. レーモン･クノー『オディール』（宮川明子訳、月曜社、2003 年）、東京新聞、2003 年 4 月 20 日
13. 赤木昭三・赤木富美子『サロンの思想史』（名古屋大学出版会、2003 年）、

図書新聞、2004 年 5 月 29 日

14. フィリップ・クローデル『灰色の魂』（高橋啓訳、みすず書房、2004 年）、東京新聞、2004 年 11 月 28 日
15. エドモン・ド・ゴンクール『歌麿』（隠岐由紀子訳、平凡社、2005 年）、東京新聞、2006 年 1 月 22 日
16. 山田登世子『晶子とシャネル』（勁草書房、2006 年）、日本経済新聞、2006 年 2 月 26 日
17. ジョルジュ・サンド『黒い町』（石井啓子訳、藤原書店、2006 年）、『ふらんす』2006 年 6 月号
18. デヴィッド・ハーヴェイ『パリ　モダニティの首都』（大城直樹・達城明雄訳、青土社、2006 年）、図書新聞、n. 2787、2006 年 8 月 19 日
19. 真田桂子『トランスカルチュラリズムと移動文学』（彩流社、2006 年）、『ふらんす』2006 年 11 月号
20. 私市保彦『名編集者エッツェルと巨匠たち』（新曜社、2007 年）、日本フランス語フランス文学会、Cahier 01、2008 年 3 月
21. 「今年の三点」、『東京新聞』2008 年 12 月 28 日
22. 高澤紀恵『近世パリに生きる』（岩波書店、2008 年）、『ふらんす』2009 年 4 月号
23. E・J・ワグナー『シャーロック・ホームズの科学捜査を読む』（河出書房新社、2009 年）、『東京新聞』2009 年 4 月 19 日
24. コタルディエールほか『ジュール・ヴェルヌの世紀』（私市保彦監訳、東洋書林、2009 年）、『赤旗』2009 年 6 月 14 日号
25. エミール・ゾラ『ウージェーヌ・ルーゴン閣下』（小田光雄訳、論創社、2009 年）、『ふらんす』2009 年 7 月号
26. フィリップ・フック『印象派はこうして世界を征服した』（中山ゆかり訳、白水社、2009 年）、『東京新聞』2009 年 8 月 9 日号
27. 斎藤環『関係する女　所有する男』（講談社現代新書、2009 年）、『東京新聞』2009 年 12 月 20 日号
28. フロラ・トリスタン『メフィス』（加藤節子訳、水声社、2010 年）、『ふらんす』2010 年 5 月号
29. 三宅理一『パリのグランド・デザイン』（中公新書、2010 年）、『東京新聞』

2010 年 5 月 2 日

30. ジュール・ミシュレ『フランス史　中世Ⅰ』（真野倫平ほか訳、藤原書店、2010 年）、『東京新聞』2010 年 7 月 25 日
31. 三宅和朗『時間の古代史』（吉川弘文館、2010 年）、『東京新聞』2010 年 10 月 24 日
32. フローラ・フレイザー『ナポレオンの妹』（中川ゆかり訳、白水社、2010 年）、共同通信配信、2010 年 11 月
33. エミール・ゾラ『パリ』（竹中のぞみ訳、白水社、2010 年）、『東京新聞』2011 年 1 月 23 日号
34. 橋本一径『指紋論 ── 心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010 年）、『ふらんす』2011 年 3 月号
35. 喜多崎親『聖性の転位 ── 一九世紀フランスに於ける宗教画の変貌』（三元社、2011 年）、『図書新聞』2011 年 4 月 30 日号
36. エドムンド・デスノエス『低開発の記憶』（野谷文昭訳、白水社、2011 年）、『北海道新聞』2011 年 7 月 24 日号
37. 松浦寿輝『不可能』（講談社、2011 年）、『東京新聞』2011 年 7 月 24 日号
38. 巖谷國士（編著）『森と芸術』（平凡社、2011 年）、『ふらんす』2011 年 10 月号
39. ダニー・ラフェリエール『帰還の謎』（小倉和子訳、藤原書店、2011 年）、同『ハイチ震災日記』（立花英裕訳、藤原書店、2011 年）、『東京新聞』2011 年 10 月 16 日号
40. ジュール・ミシュレ『フランス史　Ⅵ』（大野一道ほか訳、藤原書店、2011 年）、『北海道新聞』2011 年 10 月 30 日
41. フランソワ・チェン『ティエンイの物語』（辻由美訳、みすず書房、2011 年）、『北海道新聞』、2011 年 11 月 13 日
42. ピーター・トゥーヒー『退屈　息もつかせぬその歴史』（篠儀直子訳、青土社、2011 年）、共同通信配信、2011 年 11 月
43. アシア・ジェバール『墓のない女』（持田明子訳、藤原書店、2011 年）、『北海道新聞』2012 年 1 月 15 日
44. 中条省平『恋愛書簡術』（中央公論新社、2011 年）、『ふらんす』2012 年 3 月号

44. 加賀野井秀一『猟奇博物館へようこそ』（白水社、2012）、『図書新聞』2012年3月17日号
45. 新井潤美『執事とメイドの裏表』（白水社、2011年）、『東京新聞』2012年3月18日
46. ロスタン『ぼくが逝った日』（田久保麻理訳、白水社、2012年）、『北海道新聞』、2012年7月15日
47. ジョルジュ・ヴィガレロ『美人の歴史』（後平澪子訳、藤原書店、2012年）、『ふらんす』2012年8月号
48. ヒラリー・スパーリング『マティス』（野中邦子訳、白水社、2012年）、『東京新聞』、2012年9月9日
49. ジョルジュ・シムノン『小犬を連れた男』（長島良三訳、河出書房新社、2012年）、『北海道新聞』、2012年11月4日
50. 内田洋子『ミラノの太陽、シチリアの月』（小学館、2012年）、共同通信配信、2012年12月
51. 藤巻秀樹『「移民列島」ニッポン』（藤原書店）、『東京新聞』、2012年12月23日
52. ジャン・ジュネ『判決』（宇野邦一訳、みすず書房、2012年）、『北海道新聞』、2013年1月13日
53. イレーヌ・ネミロフスキー『フランス組曲』（野崎歓・平岡敦訳、白水社、2012年）、『北海道新聞』、2013年1月27日
54. 井上たか子（編著）『フランス女性はなぜ結婚しないで子どもを産むのか』（勁草書房、2012年）、『ふらんす』、2013年3月号
55. アンカ・ミュルシュタイン『バルザックと19世紀パリの食卓』（塩谷祐人訳、白水社、2013年）、『東京新聞』、2013年3月31日
56. サンディ・ネアン『美術品はなぜ盗まれるのか』（中山ゆかり訳、白水社、2013年）、『北海道新聞』、2013年4月28日
57. ローター・ミュラー『メディアとしての紙の文化史』（三谷武司訳、東洋書林、2013年）、『東京新聞』、2013年6月30日
58. 澤田肇『フランス・オペラの魅惑』（上智大学出版会、2013年）、『ふらんす』、2013年7月号
59. ローラン・ビネ『HHhH　プラハ、1942年』（高橋啓訳、東京創元社、2013年）、

『北海道新聞』、2013 年 8 月 18 日

60. フィリップ・フォレスト『夢、ゆきかひて』（澤田直・小黒昌文訳、白水社、2013 年）、『東京新聞』、2013 年 9 月 29 日
61. 合場敬子『女子プロレスラーの身体とジェンダー』（明石書店、2013 年）、『カティング・エッジ』、北九州市立男女共同参画センター、2013 年 10 月 1 日
62. エリック・アザン『パリ大全』、『北海道新聞』、2013 年 10 月 6 日
63. ジョー・ブスケ『傷と出来事』（谷口清彦・右崎有希訳、河出書房新社、2013 年）、『図書新聞』、3130 号、2013 年 10 月 12 日
64. 工藤庸子『近代ヨーロッパ宗教文化論』（東京大学出版会、2013 年）、『図書新聞』、3142 号、2014 年 1 月 18 日
65. 山本順二『漱石のパリ日記』（彩流社、2013 年）、『東京新聞』、2014 年 2 月 2 日
66. 私市保彦・今井美恵『「赤ずきん」のフォークロア』（新曜社、2013 年）、『北海道新聞』、2014 年 2 月 9 日
67. 高岡尚子『摩擦する「母」と「女」の物語』（晃洋書房、2014 年）、『ふらんす』、2014 年 5 月号
68. 嶋中博章『太陽王時代のメモワール作者たち』（吉田書店、2014 年）、『北海道新聞』、2014 年 5 月 4 日
69. 柏木博『日記で読む文豪の部屋』（白水社、2014 年）、『東京新聞』、2014 年 6 月 1 日
70. アルベルト・マングェル『読書礼賛』（野中邦子訳、白水社、2014 年）、『北海道新聞』、2014 年 8 月 31 日
71. 野村正人『諷刺画家グランヴィル　テクストとイメージの 19 世紀』（水声社、2014 年）、『ふらんす』、2014 年 9 月号
72. 田村毅（監修）『フランス文化読本』（丸善出版、2014 年）、『學鐙』、2014 年秋号
74. 増川宏一『日本遊戯思想史』（平凡社、2014 年）、『東京新聞』、2014 年 11 月 9 日
75. 矢田部厚彦『敗北の外交官ロッシュ』（白水社、2014 年）、共同通信配信、2014 年 11-12 月
76. アラン・コルバン『知識欲の誕生』（築山和也訳、藤原書店、2014 年）、『北

海道新聞』、2014 年 12 月 7 日

77. ポール・ベニシュー『作家の聖別 1750-1830』（片岡大右ほか訳、水声社、2014 年）、『ふらんす』、2015 年 3 月号
78. ジョナサン・コンリン『フランスが生んだロンドン、イギリスが作ったパリ』（松尾恭子訳、柏書房、2014 年）、『東京新聞』、2015 年 3 月 1 日
79. ロジャー・イーカーチ『失われた夜の歴史』（樋口幸子ほか訳、インターシフト、2015 年）、共同通信配信、2015 年 4 月
80. 清岡智比古『パリ移民映画』（白水社、2015 年）、『北海道新聞』、2015 年 5 月 31 日
81. 菊谷和宏『「社会」のない国、日本 ── ドレフュス事件・大逆事件と荷風の悲嘆』（講談社、2015 年）、『東京新聞』、2015 年 5 月 31 日
82. トム・リース『ナポレオンに背いた黒い将軍』（高里ひろ訳、白水社、2015 年）、『日本経済新聞』、2015 年 6 月 7 日
83. 村田京子『ロマン主義文学と絵画』（新評論、2015 年）、『ふらんす』、2015 年 8 月号
84. マルグリット・ユルスナール『なにが？　永遠が』（堀江敏幸訳、白水社、2015 年）、『北海道新聞』、2015 年 10 月 11 日
85. ドミニク・ボナ『印象派のミューズ』（永田千奈訳、白水社、2015 年）、共同通信配信、2015 年 10 月
86. 佐藤亮一『滅びゆく日本の方言』（新日本出版社、2015 年）、『東京新聞』、2015 年 11 月 15 日
87. マリ・ゲヴェルス『フランドルの四季暦』（宮林寛訳、河出書房新社、2015 年）、日本経済新聞、2015 年 12 月 20 日
88. エミール・ゾラ『水車小屋攻撃』（朝比奈弘治訳、岩波文庫、2015 年）、『ふらんす』、2016 年 3 月号
89. パトリック・モディアノ『エトワール広場／夜のロンド』（有田英也訳、作品社、2016 年）、共同通信配信、2016 年 3 月
90. エマニュエル・トッド『シャルリとは誰か？』（堀茂樹訳、文春新書、2016 年）、『東京新聞』、2016 年 4 月 3 日
91. ウンベルト・エーコ『プラハの墓地』（橋本勝雄訳、東京創元社、2016 年）、『ふらんす』、2016 年 6 月号

92. 吉川佳英子『『失われた時を求めて』と女性たち』（彩流社、2016 年）、『週間読書人』、2016 年 6 月 10 日号
93. 宮下志朗『カラー版　書物史への扉』（岩波書店、2016 年）、『北海道新聞』、2016 年 7 月 24 日
94. ルース・バトラー『ロダン　天才のかたち』（大屋美那・中山ゆかり訳、白水社、2016 年）、『東京新聞』、2016 年 7 月 31 日
95. 小平麻衣子『夢みる教養』（河出ブックス、2016 年）、共同通信配信、2016 年 11 月
96. 石橋正孝・倉方健作『あらゆる文士は娼婦である　19 世紀フランスの出版人と作家たち』（白水社、2016 年）、『日本経済新聞』、2016 年 12 月 11 日
97. ドミニク・カリファ『犯罪・捜査・メディア　19 世紀フランスの治安と文化』（梅澤礼訳、法政大学出版局、2016 年）、『東京新聞』、2016 年 12 月 11 日
98. ジェラール・ノワリエル『ショコラ』（舘葉月訳、集英社インターナショナル、2017 年）、共同通信配信、2017 年 2 月
99. バーナビー・コンラッド三世『アブサンの歴史』（浜本隆三訳、白水社、2017 年）、『北海道新聞』、2017 年 2 月 26 日
100. 西永良成『「レ・ミゼラブル」の世界』（岩波新書、2017 年）、『公明新聞』、2017 年 5 月 28 日
101. ティラー・マッツェオ『歴史の証人　ホテル・リッツ』（羽田詩津子訳、東京創元社、2017 年）、共同通信配信、2017 年 8 月
102. ウンベルト・エーコ『ウンベルト・エーコの小説講座』（和田忠彦・小久保真理江訳、筑摩書房、2017 年）、『北海道新聞』、2017 年 10 月 8 日
103. イヴァン・ジャブロンカ『私にはいなかった祖父母の歴史』（田所光男訳、名古屋大学出版会、2017 年）、『ふらんす』、2017 年 12 月号
104. 山内志朗『目的なき人生を生きる』（角川新書、2018 年）、『北海道新聞』、2018 年 3 月 25 日
105. ジェラール・ルタイユール『パリとカフェの歴史』（広野和美・河野彩訳、原書房、2018 年）、共同通信配信、2018 年 4 月
106. ウンベルト・エーコ『女王ロアーナ、神秘の炎』（和田忠彦訳、岩波書店、2018 年）、『日本経済新聞』、2018 年 3 月 31 日
107. イヴァン・ジャブロンカ『歴史は現代文学である』（真野倫平訳、名古屋大

学出版会、2018 年)、『日本経済新聞』、2018 年 6 月 16 日

108. デイヴィッド・ベロス『世紀の小説「レ・ミゼラブル」の誕生』(立石光子訳、白水社、2018 年)、共同通信配信、2018 年 8 月

109. 帚木蓬生『科学と信仰　聖地ルルドをめぐる省察』(角川選書、2018 年)、『本の旅人』、2018 年 12 月

110.「私の 3 冊」、『東京新聞』2018 年 12 月 23 日

111. 鈴木健一『不忍池ものがたり』(岩波書店、2018 年)、『日本経済新聞』2019 年 1 月 12 日

112. 西迫大祐『感染症と法の社会史 ── 病がつくる社会』(新曜社、2018 年)、『ふらんす』2019 年 2 月号

113. 古橋信孝『ミステリーで読む戦後史』(平凡社新書、2019 年)、『北海道新聞』2019 年 3 月 24 日

114. 小川洋『地方大学再生』(朝日新聞出版、2019 年)、『北海道新聞』2019 年 5 月 19 日

115. 松本卓也『創造と狂気の歴史　プラトンからドゥルーズまで』(講談社、2019 年)、『日本経済新聞』2019 年 5 月 25 日

116. サミュエル・ベケット『モロイ』(宇野邦一訳、河出書房新社、2019 年)、『東京新聞』2019 年 7 月 21 日

117. 柏木治『銀行たちのロマン主義』(関西大学出版部、2019 年)、『ふらんす』2019 年 8 月号

118. シャルル・バルバラ『蝶を飼う男』(亀谷乃里訳、国書刊行会、2019 年)、『東京新聞』2019 年 10 月 6 日

119. アニエス・ポワリエ『パリ左岸　1940-50 年』(木下哲夫訳、白水社、2019 年)、日本経済新聞、2019 年 10 月 12 日

120. 磯辺勝『文学に描かれた「橋」』(平凡社新書、2019 年)、北海道新聞、2019 年 11 月 24 日

121.『セザンヌ = ゾラ往復書簡 1858-1887』(吉田典子・高橋愛訳、法政大学出版局、2019 年)、『ふらんす』2020 年 1 月号

122. 尾崎俊介『ハーレクイン・ロマンス』(平凡社新書、2019 年)、北海道新聞、2020 年 3 月 1 日

123. 石井洋二郎『危機に立つ東大』(ちくま新書、2020 年)、共同通信配信、

2020 年 3 月

124. 大野英士『オカルティズム』（講談社、2019 年）、『学苑』（昭和女子大学）、2020 年 3 月、pp. 86-87

125. イヴァン・ファブロンカ『歴史家と少女殺人事件　レティシアの物語』（真野倫平訳、名古屋大学出版会、2020 年）、日本経済新聞、2020 年 8 月 8 日

126. エリック・ヴュイヤール『その日の予定』（塚原史訳、岩波書店、2020 年）、共同通信配信、2020 年 8 月

学会・シンポジウムでの口頭発表

1. 「フロベール『感情教育』における歴史の詩学」、日本フランス語フランス文学会春季 大会、学習院大学、1987 年 6 月 7 日
2. 「ロマン主義歴史学の論理とレトリック」、日仏哲学会 1999 年度秋季研究大会、東京日 仏会館、1999 年 9 月 11 日
3. “Flaubert, Maxime Du Camp et le voyage en Orient”、日仏共同開催フロベール・シンポジウム、東京大学、2000 年 11 月 24 日
4. 「没後百年　ゾラの多面性を読み解く」、日本フランス語フランス文学会秋季大会、九州大学、2002 年 10 月 26 日
5. 「フランス文学と東方旅行」、慶應義塾大学藝文学会シンポジウム「ヨーロッパ文学と旅」、2003 年 12 月 19 日
6. 「ゾラと身体の表象」、シンポジウム「ゾラをめぐる 1 日」、東京日仏学院、2004 年 3 月 13 日
7. 「自己を語るエクリチュール」（ワークショップ）、日本フランス語フランス文学会秋季大会、北海道大学、2004 年 10 月 3 日
8. 「ゾラと身体」、ワークショップ「エミール・ゾラの自然主義と当時の科学文化」、第 44 回「科学技術社会論研究会」、東京大学先端研、2004 年 12 月 4 日
9. 「近代フランスにおける女らしさの表象と規範」、シンポジウム「ジェンダーと語用論」、日本語用論学会第 7 回大会、甲南女子大学、2004 年 12 月 11 日
10. 「歴史叙述・時間・物語」、研究会「絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識」、国際高等研究所（研究代表者：近藤寿人）、2008 年 11 月 1 日
11. 「風景と都市 ── 近代フランスの文学と歴史を読み解く」、慶應義塾大学チェアシップ講座、2009 年 10 月 30 日

12.「文学と病の表象」、ワークショップ「身体論の地平」、日本フランス語フランス文学会秋季大会、熊本大学、2009 年 11 月 8 日
13.「近代フランスにおけるジェンダーの構図」、研究会「絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識」、国際高等研究所（研究代表者：近藤寿人）、2009 年 12 月 5 日
14.「パリ風景の変貌～フロベールからゾラへ」、バルザック研究会シンポジウム「風景としてのパリ」、早稲田大学、2010 年 5 月 29 日
15.「ミシュレと女性の表象」、ワークショップ「ミシュレ研究の新地平」、日本フランス語フランス文学会秋季大会、南山大学、2010 年 10 月 17 日
16.「日本へ、フランスへ、未来へ」、2010 年度日仏学生フォーラムシンポジウム、日仏会館、2010 年 12 月 4 日
17. « L'Inscription de l'histoire dans *La Débâcle* de Zola », 京都大学主催・日仏国際シンポジウム « Comment la fiction fait histoire »、関西日仏学館、2011 年 11 月 19 日
18. « Commentaire sur la conférence de Yvan Leclerc », 関東学院大学、2012 年 5 月 12 日
19.「日本における仏文学の教育・研究の現状と展望」、日本英文学会特別シンポジウム「外国語外国文学会の現下の課題」、専修大学、2012 年 5 月 27 日
20.「ゾラの『書簡集』をめぐって」、日本自然主義文学研究会、慶應義塾大学、2012 年 6 月 1 日
21.「ゾラとパリの創出」、科研「パリ風景」研究発表、上智大学、2012 年 7 月 14 日
22. ワークショップ「《文学的なもの》の身分規定をめぐって」、日本フランス語フランス文学会秋季大会、神戸大学、2012 年 10 月 21 日
23. ワークショップ「作家の書簡をどう読むか」、日本フランス語フランス文学会春季大会、国際基督教大学、2013 年 6 月 2 日
24.『交差する眼差し ── 日本文学とフランス文学の間で』（荻野アンナ／フィリップ・フォレストの対談）の司会、アンスティチュ・フランセ日本、2013 年 9 月 10 日
25. ワークショップ「文学は知をどのように取り込むか」、日本フランス語フランス文学会秋季大会、広島大学、2014 年 10 月 26 日

26. ワークショップ「いま 19 世紀文学をどのように読み解くか」、日本フランス語フランス文学会春季大会、明治学院大学、2015 年 5 月 31 日
27. « L'Héritage du naturalisme au Japon », colloque international « Héritages naturalistes », 12 juin 2015, École normale supérieure, Paris.
28.「岩崎力の仕事」、東京外国語大学、2015 年 12 月 6 日
29.「『プラハの墓地』を読む　エーコと大衆小説」、東京外国語大学、2016 年 6 月 17 日
30. 座談会「いま、フランス革命史を読み直す」（工藤庸子、熊谷英人と）、白水社、2016 年 12 月（その後『ふらんす』2017 年 2 月号、pp. 12-19 に掲載）
31. ワークショップ「フランス文学（史）とは何か」、日本フランス語フランス文学会秋季大会、名古屋大学、2017 年 10 月 29 日
32.『リアリズム文学における知と視線 ── 19 世紀フランス小説にそくして』、シンポジウム「19 世紀文学とリアリズム」、京都大学、2018 年 2 月 3 日
33. ワークショップ「女性作家と文学場のジェンダー」、日本フランス語フランス文学会春季大会、獨協大学、2018 年 6 月 3 日
34. シンポジウム「交通と文学　鉄道の時代としての 19 世紀」（コメンテーター）、リアリズム文学研究会主催、慶應義塾大学、2020 年 1 月 12 日

講演

1.「『イリュストラシオン』紙とパリの自画像」、東京日仏会館、1996 年 2 月 29 日
2.「ウジェーヌ・アジェとその時代」、東京都写真美術館、1998 年 10 月 24 日
3.「オリエントに魅せられた芸術家たち」、三鷹市美術ギャラリー、2001 年 2 月 11 日
4.「オリエントと芸術家たち」、伊丹市立美術館、2001 年 12 月 1 日
5.「ロダン、カリエールと同時代の文化」、国立西洋美術館、2006 年 4 月 15 日
6.「19 世紀のパリ、都市の自画像」、千葉市美術館、2007 年 9 月 15 日
7.「フランス文学とパリ」、大分慶友会、2008 年 9 月 20 － 21 日
8.「人はなぜ自己を語るのか」、東京日仏会館、2009 年 7 月 10 日
9.「文学と愛の情景～出会いから別離まで」、慶應義塾大学・文学部公開講座「恋愛を考える」、2010 年 10 月 2 日

10.「フランス文学と愛のかたち」、鳥取大学、日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会、2012 年 11 月 24 日
11. « Littérature et sexologie dans la France fin-de-siècle », 韓国フランス文化論学会、慶熙大学、2013 年 11 月 2 日
12.「ルノワールとその時代」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2016 年 5 月 7 日
13.「ベル・エポックの光と影 ── アジェとその時代」、ポーラ美術館、2016 年 10 月 8 日
14.「旅と文学」、「パリとフランス文化」、慶應義塾大学三田キャンパス、湘南慶友会主催、2016 年 11 月 12 日
15.「パリとセーヌ川」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2016 年 12 月 12 日
16.「〈女らしさ〉と〈男らしさ〉 19 世紀フランスのジェンダー規範」、日本女子大学総合研究所・国際服飾学会共催、日本女子大学、2017 年 3 月 11 日
17.「シャセリオーとロマン主義の時代」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2017 年 4 月 10 日
18.「セザンヌとゾラ ── 友情の軌跡」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2017 年 9 月 9 日
19.「ゾラ ── 近代を突き抜けた作家」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2018 年 3 月 9 日
20.「1920 年代のパリ ── 藤田嗣治展に寄せて」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2018 年 7 月 30 日
21.「パリ ── その歴史と文化」、横浜慶友会（日吉キャンパス）、2018 年 11 月 17 日
22.「国民的作家ユゴーの世界」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2019 年 6 月 8 日
23.「パリのノートルダム大聖堂　歴史・美術・文学」、朝日カルチャーセンター（新宿）、2019 年 10 月 19 日
24.「若い女性たちの表象と現実」、大阪府立大学女性学研究センター、2019 年 12 月 21 日